



岩下兄弟 株式会社  
「カンボジア小学校建設支援」事業



岩下兄弟株式会社 代表取締役  
社長  
岩下博明さん

故会長の遺志を継いで  
カンボジアに小学校を建設

内戦の後遺症残るカンボジアに小学校を

熊本県人吉市に本社を構える岩下兄弟株式会社は、熊本県内に14店舗、宮崎県内に16店舗を展開する九州でも指折りの遊技企業である。その歴史は、1952年(昭和27年)に、熊本県多良木町に「正村パチンコ」(正村ゲーヂからの命名)を創業したときにさかのぼる。以来、現在、代表取締役社長で熊本県遊技業協同組合理事長も務める岩下博明氏と、故人の、長兄で会長の高矢氏の二人が半世紀にわたり、両輪として経営を担ってきた。今回、審査員特別賞に輝いたカンボジアでの小学校建設支援事業は、故会長の生前の遺志を実現するものであった。

「9年ほど前ですが、兄は所用でカンボジアに出かけました。そこでシェムリアップ州の要人と会った折、カンボジアでは長い間続いた内戦のせいで、国民の多くが教育を受けられずにいる。特に農村部では校舎そのものが不足しているという話を聞き、校舎建設のお手伝いをしようという話になったそうです。その準備が始まった矢先、兄は亡くなりました。兄弟として、兄が約束したことは、弟である私の責務でもあります。そこで2009年にカンボジアに赴き、州政府の役人と会い、雨漏りがひどく、授業に支障があるというサクダ村の小学校を新たに建設することになりました」

そう話す、博明氏。工事はすぐに始まり、2010年7月に完成した。新校舎は、1室50席からなる4教室の平屋建てで、赤い屋根瓦、クリーム色の漆喰壁、青い窓枠が印象的な建物である。同月、現地で行われた完成式典には、博明氏のほか、弟の泰司氏(副社長)、正臣氏(専務)、高矢氏の三男・洋三氏(常務)なども参加した。「お坊さんの読経や、現地の伝統舞踊などもあり、大変なにぎわい。子どもたちやその父兄のみなさん、シェムリアップ州知事や教育機関の関係者など、総勢500人以上が参加しました」と、博明氏。

キラキラと輝くような眼が印象的だったという子どもたちからは、感謝のしるしとして、クレヨンで描いた新校



2010年7月に完成した小学校



現地で行われた完成式典



式典には子どもたちや現地の関係者など、総勢500人以上が参加した

舎や村の風景の図画が、学校建設に関わった人たち全員に贈られたという。ちなみに、この新校舎の壁面には、「熊本県人吉市 岩下兄弟株式会社小学校 IWASHITAKEITEI SCHOOL」という文字が刻まれている。

企業のDNAとも言える社会貢献活動の数々

政府やNGO、NPOなどによる発展途上国での学校建築という話は聞くが、地方に拠点を置く一民間企業がそれを行うというのは、決して多い事例ではない。しかし、だからこそ貴重な社会貢献活動のモデルとも言える。「民間レベルによる国際的な社会貢献活動として、日本のPRにもなるのではないのでしょうか。こうしたことを積み重ねることで、遊技業界全体に対する社会の認知度も上がってくることを期待しています」と、博明氏は語る。もちろん、箱モノをひとつ作って、それで終わりにしたくはないとも。

「まだまだ向こうでは校舎が足りないし、教育環境も十

分ではない。今後は校舎の増設をはじめ、留学生の招待、日本の子どもたちとの交流なども夢として持っています。長い目で支援を続けていきたい」

岩下兄弟(株)では、このほかにも多岐にわたる社会貢献活動に取り組んでいる。それは、社会から信頼される企業とは何かを常に追求してきた証でもある。主なものだけでも、日赤病院への寄付、消防車・救急車・行政広報車などの寄贈、老人施設合同パチンコ大会、阿蘇大観の森合同植樹祭、赤江・木崎浜清掃、ペットボトルキャップ収集などがある。最近ではプロジェクトチームを結成して、エコ活動にも全社をあげて取り組んでいる。それらの活動に、社員が家族などと一緒率先して参加しているのも大きな特徴である。こうした活動が、取引関係にある企業にも浸透しつつあるということで、地域における社会貢献活動のリーダー役として、今後の岩下兄弟(株)の発展が楽しみである。

選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員

野口昇氏

本事業は、岩下兄弟の高い志によって企画・実施されたものである。カンボジアでは、いまだに満足に小学校教育を終えられない児童も多く存在する。

このカンボジアの農村部で、岩下兄弟は周知な現地調査を踏まえ、立派な小学校を建設された。学校に通う子どもたちの目の輝きに感動を覚えた、と報告されている。

このような民間での国際協力の活動に心から敬意を表するものである。

